

《活動報告》

Kyoto University Ancient History Lecture Inauguration,
27 September, 2025

藤 井 崇

西洋古代史研究の国際化が大きく進展した 1990 年代以降、海外、とりわけヨーロッパと北米から多数の研究者が京都大学西洋史研究室を訪問して下さるようになった。こうした研究交流は、日本に居住する研究者や院生・学生にとって裨益するところ大であったし、海外の研究者にとっても、欧米の外での西洋古代史研究の活況を知るよい機会になってきた。先達の尽力で実現されてきた研究交流が、院生の留学や国際共同研究といった具体的な成果に結実した事例も、数多くある。

この伝統をさらに推進するために、わたしたちは講演シリーズ Kyoto University Ancient History Lecture を立ち上げることにした。その目的は、京都大学西洋史研究室を訪問くださる研究者のなかで、古代史研究にとりわけ大きな貢献をされた、あるいはわたしたちとの研究交流に特筆すべき実績のあった先生方に、ご研究の一端をここで披露していただいて議論を深め、さらなる研究交流に繋げていくということである。ここに付け加えるならば、ポストコロナの遠隔ミーティングの時代であっても、国際的な研究交流のリアルを若い世代に経験し続けて欲しいという、わたしの個人的な思いもある。いずれにせよ、この Kyoto Lecture が、最前線で活躍する海外研究者の京都大学訪問をしっかりとした記録に残すことで（講演の本誌での公表も予定している）、わたしたちの研究活動の今後の発展にとって重要な基盤の一つとなることを強く願っている。

わたしたちは 2025 年 9 月、この講演シリーズの幕開けを二つの講演で祝うことができた。アンゲロス・ハニオティス先生（プリンストン高等研究所）による Narcissistic Rulers Speak about Themselves: From Darius to Augustus and Beyond と、バート・スミス先生（オクスフォード大学）による Art and History in the Alexander Mosaic from Pompeii である。前者は、古代の支配者による自己の語りを析出しながら現代の国家元首のレトリックを照射し、後者は、有名な「アレクサンドロス・モザイク」について大胆な新解釈を提示するものだった。ご講演の詳細については、次号本誌での正式な公表を楽しみにしていただきたい。総勢で 40 余名の参加者を得ることができ、Kyoto Lecture を素晴らしい形ではじめることができた。

Kyoto University Ancient History Lecture Inauguration

27 September, 2025
Department of European History
Graduate School of Letters, Kyoto University

16:00 – 16:15 Opening Remarks

16:20 – 17:20 Angelos Chaniotis (IAS, Princeton)

*Narcissistic Rulers Speak
about Themselves:
From Darius to Augustus
and Beyond*



17:40 – 18:40 R.R.R. Smith (University of Oxford)



*Art and History in the Alexander
Mosaic from Pompeii*

Venue: Clock Tower Centennial Hall, Conference Room III
JSPS KAKENHI 21KK0214 and 22K00939
Contact: Takashi Fujii (fujii.takashi.3c@kyoto-u.ac.jp)



京都大学
KYOTO UNIVERSITY